



ふくしま「学宿」(7月31日~8月2日)

津波と原発被害からの復興途上にある福島県双葉郡を訪問して、現地で復興に取り組む方々から直接話を伺いました。ふたば未来学園高校の社会起業部の皆さんには帰還困難地域である双葉町を案内していただき、話し合うことでお互いの思いを共有することができました。少人数での実施でしたが、「歩く」「見る」「聞く」「対話する」「考える」を実践する3日間になりました。



釧路湿原スタディツアー(8月21日~23日)

北海道 釧路湿原の見学を通して、生態系保全に関する学習を行いました。参加者は生徒20名職員3名。ツアーに先駆けて開催された3回の事前学習会からツアー当日まで、釧路国際ウェットランドセンターの新庄久志氏、国連大学サステナビリティ高等研究所の柳谷牧子氏を講師としてお迎えし、生物多様性やその保全について学びました。ウェダー(胴長)を着用して湿原の沼地を進み、川でカヌーを漕ぎながら周囲の環境を観察するなどの体験を通して、湿原独自の生態系について理解を深め、これを守る大切さを肌で感じることができました。



県立温泉地学研究所見学(8月19日)

午前中は所員(本校卒業生)の方から講義をしていただきました。火山が噴火するメカニズムを丁寧に説明していただきました。午後は「温泉について」の講義で神奈川県や横浜市の温泉について詳しく説明していただきました。

所内にある展示や最新の温泉成分の測定器や地震をリアルタイムに測定する器械を見せていただきました。



東大スーパーコンピュータ見学(8月19日)

東京大学情報基盤センター(柏市)に生徒12名職員2名で見学してもらいました。スーパーコンピュータを用いた研究をされている中島研吾教授、奥田洋司教授、藤堂真治教授の講義の後、4名ずつの班に分かれセンター職員の解説を受けながらスーパーコンピュータの見学を行いました。



中外製薬鎌倉研究所見学(8月17日)

講義では、ひとつの新薬が世に出るまでには、私たちが知らない積み重ねがこんなにもあるのかと数に驚かされました。続く研究所見学では、数十億円もする大きな機器を一人で操作する研究のスケールの大きさにまた驚かされました。楽しみにしていた電気泳動によるDNAの長さ測定では、光り輝くバンドが蛍の光のように美しかったです。鎌倉での研究所見学は今回で最後となりますが、次は新設・移転する戸塚の研究所をぜひ見学したいです。(生徒7名、職員1名参加)



医療にまつわる統計学(8月25日)

夏期講習では中外製薬株式会社より講師の方々をお迎えし、「新しいクスリを世に出すということ」という題目で講義を行っていただきました(生徒12名参加)。クスリの効果を確かめるための統計学的手法を、講師が各グループに付いて一緒に考えたり、製薬会社に勤める方々に進路選択について質問したりと、普段の授業とは一味違う、とても有意義な講義となりました。

